

NEW VOICES, NEW VIEW

SPECIAL FEATURE

新しい風が見つけた、 上ノ原小の子どもたち ~異動・新任の先生方との対話から~

この春、上ノ原小学校には、ほかの学校から異動してきた先生や、初めて教壇に立つ新任の先生が加わりました。先生方が上ノ原小で過ごし始めて、もうすぐ半年。学校運営協議会では、新しく赴任した先生方に、上ノ原小の子どもたちや学校の雰囲気をもどのように感じているのか、率直にお話を聞きました。



01. 「子どもたちが多い！」から 始まった上ノ原小



異動してきた先生が、まず驚いたのは、やはり子どもたちの多さでした。

「上ノ原小の子どもたちって、人数が多い！」

これまで勤務してきた学校と比べても、上ノ原小は大きな学校です。けれど、日々子どもたちと接する中で、その印象は少しずつ、子どもたち一人ひとりの姿へと変わっていきました。

いつも一生懸命で、学びたいという意欲を感じます！いろいろなことを得意とする子がたくさんいます！

全校朝会で先生が投げかけた言葉に、子どもたちが思わず返事をする。休み時間になると、校庭へ出て遊ぶ子がたくさんいる。必要以上に格好をつけることなく、素直に反応する。そのような姿から、先生方は上ノ原小の子どもたちに、親しみや子どもらしいのびやかさを感じているそうです。

以前勤めていた学校では、高学年になるにつれて中学受験への緊張感が強まり、学校全体の空気も張り詰めていくことがあったという先生もいました。それと比べると、上ノ原小の子どもたちは、学校の中で自然体で過ごしているように見えます。一方で、大きな学校だからこその難しさもあります。

50 人の中の一人であることと、100 人の中の一人であることは、やはり違います。

人数が多い場では、一生懸命に参加していても、自分がその場をつくる一人であるという実感をもちにくくなることがあります。先生方からは、「もっと自分の考えや元気を表に出してもよいのに」と感じる場面もあるという声が聞かれました。

一人ひとりが埋もれることなく、「これは自分にも関係のあることだ」と感じられる学校を、どのようにつくっていくか。これは子どもたちだけの課題ではなく、私たち大人と一緒に考えていきたいことです。

02. 学校を支える地域と保護者の姿



先生方の目には、子どもたちだけでなく、上ノ原小を取り巻く地域や保護者の姿も新鮮に映っていました。お祭りや全校行事に地域の方々が関わり、学校を身近な場所として親しみをもって支えていること。それは、どの地域、どの学校にも当たり前にある光景ではないそうです。

保護者同士も、すべての人が顔見知りというわけではありません。それでも、保護者会では穏やかに、前向きに話を聞き、和やかに言葉を交わす姿が見られるといいます。最近では、保護者会そのものを開かない学校や、学年単位では実施しない学校も増えているそうです。

もちろん、平日に仕事を休んで学校へ来ることが難しい家庭も少なくありません。これまでのつながりを大切にしながら、それぞれの家庭が無理なく学校と関わる方法を考えていくことも、これからの課題なのだと思います。

03. 「先生一年生」の毎日



今年度、上ノ原小では、新任の先生方が、教員としての新しい一歩を踏み出しました。先生方自身が育った地域や、通っていた学校の規模はさまざまです。上ノ原小に来て、子どもや教職員の多さに驚いたり、自分が子どもだったころとは異なる学校の仕組みや言葉に戸惑ったりすることもあったそうです。

初めて教員として子どもたちの前に立ち、授業を進め、学級や保健室で一人ひとりと向き合う毎日。「今は一日一日を必死に過ごしています」という率直な言葉からは、子どもたちのために懸命に取り組む姿が伝わってきました。

先生になったからといって、初めから何でもできるわけではありません。授業のつくり方や子どもとの関わり方はもちろん、学校で使われている ICT 機器など、覚えなければならないことがたくさんあります。分からないことを先輩の先生に尋ね、研修で学び、試行錯誤しながら、毎日の子どもたちとの時間に向かっています。

そんな新任の先生方を支えているのが、上ノ原小の職員室です。

「困ったときに周りの先生に助けてもらっています」「職員室には笑顔があり、声をかけ合える雰囲気があります」

若手の先生同士だけでなく、経験を重ねた先生と若手の先生との間にも、自然な交流があるそうです。

誰かが困っているときに声をかける。分からないことを安心して尋ねられる。世代や経験年数を越えて支え合う。そのような職員室の日々の関係が、新任の先生方の安心につながり、やがて子どもたちの安心にもつながっていくのだと思います。

子どもたちにとっては、教壇に立てば、どの先生も「先生」です。しかし、新任の先生方もまた、周囲の先生に支えられ、子どもたちとの関わりから学びながら、一步步成長しています。そんな「先生一年生」の歩みを、保護者や地域も温かく見守っていかれたらと思います。

子どもたちと先生たちが、安心して自分の力を出せる学校にするために、私たちにできることは何でしょうか。

学校運営協議会の報告

04. 子どもと先生が、ともに育つ学校へ



お話の中では、「授業以外にも、もっと子どもたちと一緒に過ごしたい」という声も聞かれました。先生方の一日は、授業だけで終わるわけではありません。会議や研修、授業の準備などが続き、子どもたちとゆっくり話したり、一緒に活動したりできる時間は、思っている以上に限られています。だからこそ、45分の授業や休み時間に交わされる短い会話が、先生と子どもをつなぐ大切な時間になっています。

経験を重ねた先生も、新任の先生も、子どもたちに教えながら、子どもたちとの関わりから多くのことを学んでいます。学校は、子どもだけが育つ場所ではなく、先生も、保護者も、地域の人も、関わり合いながら育っていく場所なのかもしれません。

新しい先生方が運んできた風は、私たちが普段見慣れている上ノ原小のよさと、これから一緒に考えていきたいことの両方を教えてくださいました。先生方の頑張りを学校の中だけに任せるのではなく、挨拶やねぎらいの一言など、保護者や地域からも温かな風を送りたいと思います。

第3回学校運営協議会(6/19)

概略

第3回学校運営協議会では、学校公開を参観し、授業や子どもたちの様子について意見を交わしました。あわせて、6月3日の台風6号の際、市立学校によって登校・休校の対応が分かれたことを踏まえ、非常変災等の対応を確認。判断基準の共有や、保護者への情報伝達のあり方について話し合いました。また、体力向上の取組や特別支援教室についてなど、今後の学校運営について報告を受けました。

第4回学校運営協議会(7/22)

概略

第4回学校運営協議会では、学校の近況報告を受けた後、異動・新任の先生方を囲み、上ノ原小の子どもたちや学校の雰囲気について率直なお話を伺いました。子どもたちのよさや大規模校ならではの課題、先生同士が支え合う職員室の様子などを共有しました。さらに、調布市の体力向上に関する研究指定校として、子どもたちが自ら進んで体を動かしたくなる環境づくりや働きかけについても意見を交わしました。最後に校内を巡り、防災・防犯、安全性や快適性の視点から施設の現状と課題を確かめました。